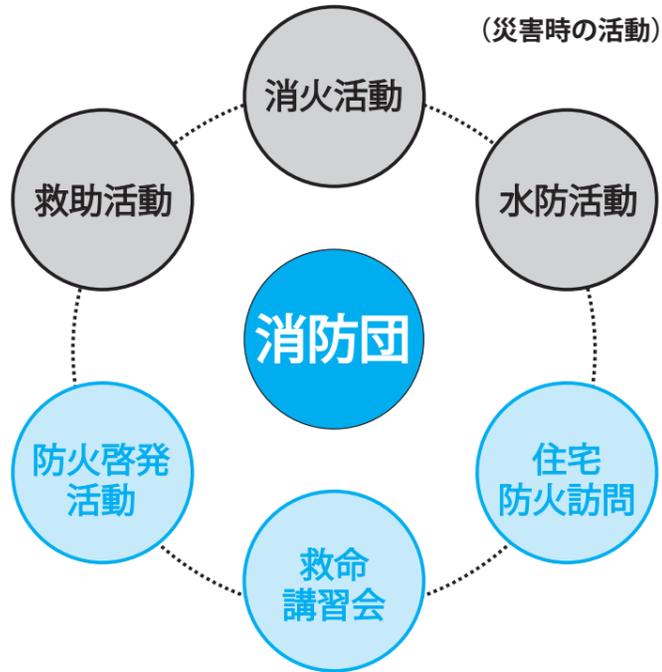


知りたい！消防団のこと

- Q どんな人が消防団員になっているのですか？
- A 「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、自分の意志で社会のために活動する、それぞれの職業を持った地域住民の人たちで、7割余りがサラリーマンです。
- Q 消防団員の身分はどうなっているのですか？
- A 消防機関（組織）の構成員なので、非常勤特別職の地方公務員になります。



(平常時の活動)

地域に根ざす消防団の活動



栗山消防団団長 永田 英隆さん

行動につながる組織に 長年の消防団活動で、まちを守っていくという使命感や消防団員としての責任感が身につきました。団員には、火災や災害時だけでなく、訓練や講習などで災害対応のための技術や地域を守るといった意識を高めてほしいという思いがあります。その思いをみんなが共有して地域の安全・安心、自分たちのまちを守っていくという行動につながるような組織にしていきたいと思っています。

どを行う、消防組織法に基づいて全市町村に設置された消防機関（組織）です。

日ごろは、各個人が仕事に専念し、災害などが発生した際には消防団員としてその対応にあたり、地域の消防防災体制の中核的存在として活躍しています。

平成28年に発生した熊本地震では、各消防団が震災直後から安否確認や避難誘導を行い、被災者の救助や夜間パトロールなど、消防団が持つ「地域密着性（地域の事情に詳しい）」と「即時対応力（災害対応の技能・知識の習得）」を発揮し、大きな力になりました。また、女性の消防団員も年々増

加しており、（平成28年4月1日現在、2万3894人）が各地で活動しています。

◆**平常時**
地域を災害から守るため、火災予防や防災啓発などを行うほか、応急手当の普及・啓発や各家庭を訪問しての防火啓発、災害対応のための訓練や機材の点検などを行っています。

◆**災害時**
災害などが発生した際は、自宅や職場から現場に駆けつけて、初期消火や消防隊員の後方支援などその場に応じた対応をとるほか、状況により的確かつ迅速に人命の救助・救出を行います。

特集

消防団—私たちが地域を守る



大規模な火災や災害が頻発している昨今、地域における消防団の充実強化が求められています。今月号では、消防団の役割について特集します。

消防団の現状

消防は、火災や災害などから私たちの生命と財産を守り、地域の安全・安心のために重要な役割を果たしています。

全国の消防機関には約104万人が所属しており、その中で、消防団員は約88万人います。

しかし現在は、産業・就業構造の変化、加速度的に進む少子高齢化などにより年々減少を続けており、地域における防災力の低下が危惧されています。

そのような状況から、国では地域防災力の向上を図るため、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を平成25年12月に成立させ、消防団への加入促進、消防団員の処遇改善、教育・訓練の充実・標準化、装備の充実強化を進めています。

消防団とその活動

消防団は、消防署とともに火災や災害への対応、予防啓発活動な

見学自由

「備えあれば憂いなし」 栗山消防団 春季連合消防演習

【日時】 6月10日(土) 15:00～
【場所】 栗夢広場 (旧栗山小学校グラウンド)



地域の安全・安心のために

募集しています！消防団員

【入団条件】

- 町内に在住している方
- 年齢が満18歳以上45歳未満の方
- 心身ともに健康な方

【問い合わせ】

南空知消防組合
消防署消防課
☎ 72-0150 (代表)



地域の防災リーダー

消防団は、これまで書いたようにさまざまな活動を行い、地域の防災リーダー、防火・防災の要として重要な役割を担っています。そして、住民の生命・身体・財産を守るため、技術を磨き、心身を鍛えています。

地域を火災や災害から守るためには、一人ひとりの力が必要になります。消防団の活動を通して、地域のつながりの大切さや災害への備えを考えてもらえればと思います。そして、地域の安全・安心のために、消防団員として活動してみませんか。



栗山消防団

栗山消防団は、団長・副団長を筆頭に3分団、約130人で活動を行っています。

春・秋の火災予防運動では、防火広報や防火PR活動などを行い、特に、春季連合消防演習では、分列行進やポンプ操法などを実施し、日ごろの訓練の成果を披露しています。

また、新春恒例の出初式では、高さ約6メートルのはしごの上で、威勢の良い掛け声とともに倒立や両手足を広げる登梯を行い、災害のない穏やかな年を願って妙技を披露しています。



信頼される団員に

果物店を営む
仲井 浩祐隊員

家業を継ぐため栗山町に戻ってきた年に入団したのでもう20年近くたちます。仕事をしながらの訓練や演習などは、時間のやり繰りが大変ですが、いろいろな職業の方と知り合うことができ、仲間も増えたので良かったです。消防団は、住民から信頼されていることが大事だと思っています。火災だけでなく震災で活躍していた消防団のように、有事の際はしっかり活動できるように、普段から団員の仲間と意識を持ちながら訓練に臨んでいきたいです。



学んだことを生かす

農業を営む
久宝めぐみ隊員

平成23年に農業をするために栗山町に移住してきました。現役の消防団員に声を掛けていただいたことがきっかけで入団。団員になって栗山町をみんなで守ろうという町民の栗山愛を感じています。活動を通して心肺蘇生やAEDの使い方など、救命救急の知識を得ることができましたし、友人も増えました。これからは、講習などで学んだことを、町民のために生かしたいですし、もっと女性消防団を身近に感じてもらえるように活動したいと思います。

女性消防団

女性消防団は、女性からの視点で火災予防活動などを推進するため平成27年に誕生し、現在は10人で活動しています。

会社員や農業、主婦など職業は幅広く、さまざまな活動に参加し活躍しています。

活動は、春の火災予防運動に合わせた防火の呼び掛けや火の元の点検を行う高齢者宅訪問、デパート前での防火PR活動、救急医療週間に合わせた救急講習などを実施しています。

